

地域に元気と笑顔を届ける -遊子川ザ・リコピンズ-

愛媛県西予市の遊子川地区は、高地を活かしたトマト栽培が盛んで、昼夜の寒暖差が大きいいため、甘みと酸味のバランスがとれた良質のトマトが生産されています。同地区は、山あいの小さな集落ですが、今、地域に活気があります。

地域を盛り上げているのは、企業組合「遊子川ザ・リコピンズ」。年々元気がなくなっていく地域を何とかしたいとの思いで、トマト農家の女性たちが集まって、2014年に誕生しました。

リコピンズでは、これまで未利用であった規格外のトマトを活用し、トマトケチャップやトマトユズポン、青トマトの粕漬けなどを商品化することで、特産品の需要拡大を図るとともに、農家レストラン「食堂ゆすかわ」を毎週水曜日と毎月第4日曜日に営業し、地元のおいしい食材を提供しています。また、営業日以外には、誰もが自由に使用できる無人のオープンカフェも開設し、地域の交流拠点としても賑わっています。



遊子川産トマト使った商品



好評を得ているリコピンズの宅配弁当

そのような中、昨年4月、県内で新型コロナウイルスの感染が広がり始め、断腸の思いで食堂の休業を決断。農業をしながら活動しているメンバーが食堂用に栽培している野菜をどう活用するかを模索する中で、苦境打開策として宅配弁当事業を考案。自作チラシを宅配対象地域に配布したところ、大きな反響があったそうです。

食堂の常連客に加え、これまで足を運べなかった高齢者や住民が利用し、グループや地域内の活性化にも繋がっています。

事務局の水口さんは、「食堂の営業と併せて、今後も宅配事業を続けたい。」と話していました。

さらに、リコピンズでは、製造販売するポン酢やケチャップなどを使うレシピ本を制作。商品購入者や道の駅、地域内全世帯に配布しているそうです。本には、「食堂ゆすかわ」で提供するメニューの作り方を紹介しており、製造する7商品それぞれに適した29レシピが掲載されています。また、高齢者が読みやすいように写真や文字の大きさを工夫するとともに、主要メンバーの一言コメントを添えるなど親しみやすさが売りです。

「家庭でも遊子川自慢の味を楽しんでほしい。」と語る代表の辻本さん。丹精込めて育てたおいしいトマトで、地域に元気と笑顔を届けたいその思いで、今日も奮闘しています。



リコピンズ商品を使ったレシピ本

インフォメーション

「みどりの食料システム戦略」の策定について

我が国の食料・農林水産業は、大規模自然災害・地球温暖化、生産者の減少等の生産基盤の脆弱化・地域コミュニティの衰退、新型コロナを契機とした生産・消費の変化などの政策課題に直面しており、将来にわたって食料の安定供給を図るためには、災害や温暖化に強く、生産者の減少やポストコロナも見据えた農林水産行政を推進していく必要があります。このような中、健康な食生活や持続的な生産・消費の活発化やESG投資市場の拡大に加え、諸外国でも環境や健康に関する戦略を策定するなどの動きが見られます。今後、このようなSDGsや環境を重視する国内外の動きが加速していくと見込まれる中、我が国の食料・農林水産業においてもこれらに的確に対応し、持続可能な食料システムを構築することが急務となっています。このため、農林水産省では、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

みどりの食料システム戦略(概要)
～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRi) 令和3年5月 農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルール・メーキングへの参画

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロミッションの実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病虫害管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発より化学農薬の使用量(リスク換算)を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を従来より3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原料調達の実現を目指す
- エリートリー等林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンナギ、クマノミ等の養殖において人工種子比率100%を実現

戦略的な取組方向

- 2040年までに革新的な技術・生産体系を誘発開発(技術開発目標)
- 2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、2050年までに生産力向上を推進し、その社会実装を実現(社会実装目標)
- 今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現(社会実装目標)

期待される効果

- 国民の豊かな食生活、地域の雇用・所得増大
- 生産者・消費者が連携した持続可能な日本型食生活
- 地域資源を活かした地域経済の発展
- 多様な人が住みやすい地域社会
- 環境と採れた食料・農林水産物
- 化石燃料からの脱却によるカーボンニュートラルの貢献
- 化学農薬・化学肥料の削減によるコスト削減

農林水産省や地域の将来も食料システム構築が急務

経済 持続的な産業基盤の構築
・輸入から国内生産への転換(肥料・資材・原料調達)
・生産力の向上による輸出拡大
・新技術を活用した多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会 国民の豊かな食生活、地域の雇用・所得増大
・生産者・消費者が連携した持続可能な日本型食生活
・地域資源を活かした地域経済の発展
・多様な人が住みやすい地域社会

環境 将来にわりと安心して暮らせる地球環境の継承
・環境と採れた食料・農林水産物
・化石燃料からの脱却によるカーボンニュートラルの貢献
・化学農薬・化学肥料の削減によるコスト削減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルール・メーキングに参画(国際食料システムサミット(2021年9月) 総括)

みどりの食料システム(具体的な取組)
～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

調達

- 1. 資材・エネルギー調達における脱炭素・脱炭素化・環境負荷軽減の推進
- 2. イノベーション等による持続的生産体制の構築

生産

- (1) 高い生産性と両立する持続的生産体系への転換
- (2) 機械の電化・水酸化等、資材のグリーン化
- (3) 地域にやさしいスーパー品種等の開発・普及
- (4) 農地・森林・海洋の炭素の長期・大量貯蔵
- (5) 労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大
- (6) 水産資源の適切な管理

加工・流通

- 3. ミニムダのない持続可能な加工・流通システムの確立

消費

- 4. 環境にやさしい持続可能な消費の拡大と食育の推進

期待される取組・技術

- ～期待される取組・技術～
 - 地産地消型エネルギーシステムの構築
 - 改質リソリン等を活用した高性能材料の開発
 - 食品残渣・汚泥等からの肥料成分の回収・活用
 - 新たなタンパク源(昆虫等)の利活用拡大等
- ～期待される取組・技術～
 - スマート技術によるポイント農業散布、次世代総合的病虫害管理、土壌・生育データに基づく施肥管理
 - 農林業機械・船舶の電化等、脱炭素生産資材の開発
 - バイオ炭の農地改良技術
 - ドローン等の開発・普及、人工林農産物の適利利用の確立
 - 海産物によるCO2固定化(ブルーカーボン)の推進等
- ～期待される取組・技術～
 - 持続可能な農山漁村の創造
 - サプライチェーン全体を貫く積極的取組の確立と推進(人材育成、未来志向投資)
 - 森林・木材の活用によるCO2吸収と固定の最大化
- ～期待される取組・技術～
 - 食品ロスの削減など持続可能な消費の拡大
 - 消費者と生産者の交流を通じた相互理解の促進
 - 栄養バランスに優れた日本型食生活の総合的推進
 - 建築の木造化、暮らしの木質化の推進
 - 持続可能な水産物の消費拡大
- ～期待される取組・技術～
 - 外見重視の見直し、持続性を重視した消費の拡大
 - 国産品に対する評価向上を通じた輸出拡大
 - 健康寿命の延伸に向けた食品開発・食生活の推進

期待される取組・技術

- (1) 持続可能な輸入食料・輸入原材料への切り替え
- (2) テクノロジーの活用等による加工・流通の合理化・適正化
- (3) 長期保存・長期輸送に対応した包装資材の開発
- (4) 脱炭素化、健康・環境に配慮した食品産業の競争力強化

期待される取組・技術

- ～期待される取組・技術～
 - 電子タグ(RFID)等の技術を活用した商品・物流情報のデータ連携
 - 需給予測システム、マシナリーによる食品ロス削減
 - 非接触で人手不足にも対応した自動配達稼働

詳しくは、こちらをご覧ください。(農林水産省ホームページ)
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html#sakutei>

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝アワード(第8回選定)エントリー募集について

農林水産省では、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るものです。このため、他の地域の参考となるような優れた地域活性化の取組を募集します。

選定された地区に対しては、選定証の授与を行うとともに、「ディスカバー農山漁村の宝」特設Webサイトでの活動の紹介などを通じて、全国的な情報発信を行います。

詳しくはこちらをご覧ください。
(ディスカバー農山漁村(むら)の宝アワード～第8回選定ホームページ)
<https://www.discovermuranotakara.com/>

